

令和2年度

南区地域包括ケアシステム推進会議

報告



南区イメージキャラクター

令和3年3月

熊本市 南区 福祉課

【委員の皆様からの意見・提案】

1. 新型コロナウイルス感染症に対応した介護予防に関する広報強化・ きっかけづくりの状況について

- コロナ感染を怖がって受診控えがあり、結果歯周病やカリエスの重症化からオーラルフレイルにつながるケースが見られるため、その点の啓発もお願いしたい。
- テレビやラジオなど幅広く広報されていることに、驚いた。訪問看護ステーションなどの事業所に広報内容をお知らせしていただくと、訪問先の利用者に紹介できると思う。
- コマーシャルやラジオでは地域へ周知していたが、見ている方には偏りがあるように感じた。パンフレットや運動手帖等の紙ベースのモノは反響も大きく、実践につながっていると感じる。広報は継続することで効果がでると思うので、今後も様々な媒体での広報は継続していただきたい。
- 各まちづくりセンター内での介護予防の取り組みを放映すると、地域住民の目に触れやすいのではないかと思う。
- 地域の子どもたちによる感染症予防と介護予防を目的にした「元気応援メッセージ」をまちづくりセンターと協働で作成し、放映してみてもどうか？
- サロン、包括のHP上で行政からの情報は随時周知していたが、対象者からは得た情報の活用について意見や感想等は受け付けたこともない。サロン参加者の会話でも話題に出てこなかった。必要な対象者に届く方法を検討すべきではないか。
- 人との交流がなかなか難しい現在、テレビ・ラジオその他の広報で介護予防等情報発信されることはとても良いことだと思う。今後も継続してほしい。
- 色々な試みがなされていたが、住民が実施されたかは分からない。個人的にはテレビで見て知り、実施した。夏休み時のラジオ体操やサロン参加者には知らせた。(市政だよりで知らせてあったかもしれないが、知らない人多かったように思う)
- 運動手帖は市政だよりで知り、南区にもらいに行き実施している。

- テレビ・ラジオ等を活用されパンフレットも多く作成され広報されているが、実際どれくらいの人が意識して目や耳にしているのかが分からない。
- ホームページやFM ラジオ、また各種のパンフレットチラシ等様々な手段を使い広報を強化されているのは理解できるが、現場の高齢者宅を訪問してみるとほとんどのお宅に情報は届いていない。

2. 各高齢者支援センターささえりあにおける新型コロナウイルス感染症に対応した取組

- 感染予防の広報を、フレイル予防も含めて引き続き続けていただき、関係機関と連携を取りながらやっていただきたい。
- 各サービス事業所からの感染に関する相談窓口があればと思う。
- 通いの場の自粛により、社会参加の機会が減少した地域の高齢者に向けて、地域の子どもからのメッセージを発信してはどうか。
- 新型コロナウイルス感染拡大で3月以降いろんな活動が自粛要請になり、公民館活動も全て休止状態となった。私自身もうつ寸前、そんな時百歳体操を耳にした。地域のささえりあの職員さんに相談し、近所の仲間に声をかけ引きこもり寝たきりにならないように元気くらぶを結成した。
- 感染症対策は良くされていると思うが、民生委員の活動は見かけなかった。
- 地域通いの場（サロン）ではささえりあさんから注意書きをもらった。実施するときの注意書きは有難かった。10月から通いの場を再開できた。
- ささえりあにおいてはよく対応されていると思う。

3. 地域包括ケアシステム構築に向けた、南区における今年度の取組

- 自分の健康は自分で守る。自分を守ることのできる人を育てる。市民の患者力を上げて賢い患者になってもらうための医療・介護の啓発活動に取り組みたい。
- マスコミは視聴率を気にして、必要以上に大きく報道する傾向があるので、高齢者に対し正しい情報を提供してほしい。
- 今まで「南来るあるサ～（南区多職種連携有志の会）」で開催していた会議や研修会を少人数に分けて開催できれば良い。多職種が集まりフリートークできる場が必要だと思う。
- 認知症支援の取組に関しては、南区にいる認知症介護指導者が県や他区で活動されているので、南区でもプロジェクトチームを発足し進めてはどうか。
- 医療機関・福祉施設と協働で、自立支援の取組に対する評価を行っていったらどうか。
- 老人会も毎年参加者が少なくなっている。高齢者が特技・趣味など校区を超えたつながりの場があればと思う。
- 12月になってから南区内の「いきいきサロン」が再開したことで、8020のボランティア活動が行えた。各地域でこのような催しが計画されればお声掛けをお願いしたい。歯科衛生士のご指導をいただきながら喜んで活動させていただきたい。
- 元気クラブの要件は1回/週以上だが、毎週は活動できない事情があることも考慮してほしい。
- 認知症・介護については高齢者の問題と思っていたが、自分の身の回りで起こると、ささえりあ等の関係機関の方々にお世話になることで、介護する家族にとって気持ちにゆとりができることが気づけた。まずは「地域の高齢者支援センター ささえりあさんへ相談してみてもは？」と見守り活動時に話をしている。
- 医療と介護の連携：現在の地域包括ケアシステムは高齢者を対象に高齢者向けのサービスに限られており全世代、全住民型のシステムと捉えた場合、限界があると思う。政策面での分断化が解消されないと難しい。我々住民が2025年、2040年問題を「我が事」と感じるためにも地域で起きている支援困難事例について検討する場を設け、そこに住民が参加することで地域の課題や問題に直面することが基本だと思うので、医療と介護のシステムがうまく動き、その人の生活が分断

されなかった事例やあるいは逆の事例等、また医療介護のシステムも限界があり、住民自治も参加してうまくいった事例等のシンポジウムを開いてはどうか。

4. その他の意見

○口腔ケアがコロナの感染や重症化の予防につながるようになってきたのでそれをもっと啓発していきたい。

○認知症が増加していく中で、家族が認知症に対応ができない方が多い印象。各包括で開催されている「認知症の勉強会」を継続して開催してほしい。（コロナで休止になっているところも多い）感染予防しながらの開催をお願いしたい。

○熊本市 8020 健康づくりの会の取組として今年度創立 10 周年を記念し、本会の活動を紹介するリーフレットを作成中。本リーフレットには歯と口腔の健康づくりに役立てていただきたく「マスクをしたままできるお口の体操」を掲載した。地域の方々に配布していきたい。